

「ZiDOMA data」による分析で長年の悩みが一瞬で解決！

プリンタのトラブルまで解消という予想外の効果も

画像や動画ファイルの増加により、ファイルサーバ利用容量が激増し、このままではストレージの追加が免れない状況に具体的な対策を練るためにも、ファイルサーバ内の利用状況を分析する必要性に迫られる
「ZiDOMA data Ver.7」の分析機能を用いて分析した結果、重複ファイルが大きく容量を占めていることが発覚
それらを削除することで、ファイルサーバ容量が確保され、ストレージの追加が不要に

ミタチ産業株式会社様



愛知県名古屋市に本社を置く電子部品の総合商社

1972年09月20日創業

2004年に東証2部、名証2部上場

2005年に東証1部、名証1部上場

社名のミタチは「三つ（お客様、仕入先様、当社）で立つ」という三位一体の精神が由来

従業員数：連結476名（2019年5月31日現在）

■ 課題

データ量の増加によりファイルサーバの容量が圧迫され、早急な対処が必須な状況に

サーバ内にあるファイル状況が不明なため、保護が必要なファイルと削除しても問題がないファイルの実態がどの程度なのかがわからず、適切な対応策を練ることができない状況に陥っていた

■ 導入メリット

分析によって、サーバ内のファイル状況が判明

不要なファイルを削除したところ、十分な空き容量が得られたため、ストレージを追加する必要がなくなり、コストの増加が抑えられた

ミタチ産業株式会社様のミッション

増加の一途を辿るデータ量 対策を練るためには指針が必要

愛知県名古屋市に本社を構えるミタチ産業は、半導体や電子部品などを取り扱うエレクトロニクスの総合商社。その土地柄もあり、特に自動車関連や遊技機業界との取引が盛んとなっています。

そんな同社では、扱うファイルサイズの激増によるサーバ容量の圧迫に頭を悩ませていました。

「最近では、スマートフォンで簡単に写真が撮れるので、画像で情報を共有するケースが増えてきました。お客様からの質問も、写真で送られてきたり、場合によっては動画で確認を求められたりすることもあります。

ご存知の通り、動画ファイルはデータ量も大きいので、2度3度とコピーを重ねていけば、加速度的にファイル領域を消費してしまいます。」と語るのは、同社の情報系システムに関する業務を引き受ける情報システム課係長 斉藤 純爾氏。

ミタチ産業株式会社
情報システム課
係長 斉藤 純爾氏



重複した動画ファイルが、
ファイルサーバ肥大の原因で
ZiDOMA data で特定した



このままの状態が続けば、近いうちにファイルサーバの容量が不足するのは確実でした。しかし、サーバ内にあるファイルがどのような状況にあるのかわからなければ、具体的な対策を立てることもできません。

例えば、頻繁にアクセスするファイルがわずかであれば、その他のファイルを安価なバックアップストレージに移行してファイルサーバの容量を確保するという対策があります。逆に、頻繁にアクセスするファイルが多いのであれば、ファイルサーバ自体のストレージを追加することも検討しなければなりません。そして、どちらの対策をとるべきなのかは、ファイルサーバの使用状況を知る必要があります。

「ファイルサーバの現状を知るために何か良い方法が無いか、以前からお付き合いのあったCSIソリューションズ（以下CSI）の衣川さんに相談したところ、紹介していただいたのがZiDOMA dataでした。」

ZiDOMA data の分析 1 回で課題が解消

斉藤氏によると、CSIとは別のルートで他のソリューションの紹介もあったとのこと。しかし、「試算をするとZiDOMA dataと比較すると費用が3~4倍にもなることがわかりました。ただ、分析の段階でそこまでの予算はかけられません。それと、10年以上もお付き合いをしてきて、酸いも甘いも知り尽くした仲であるCSIが勧めるのであれば、という気持ちも少なからずありました。」

試用版で1週間程度の検証を行った後に、正式に導入を決定。

セットアップが完了した後、斉藤氏は即座に分析に取り掛かったそうです。「事前にCSIと導入支援についても検討しましたが、ZiDOMA dataは導入も運用も簡単との話だったので、一旦、私たちだけでやってみて、それで戸惑うようだったら手助けをお願いしようと考えていました。実際にやってみると、本当に簡単で、セットアップには1日もかからなかったんです。」セットアップが完了した後、「一刻もはやく試してみたかった。」斉藤氏は、すぐにファイルサーバの分析に取り掛かりました。その結果いくつかの重複ファイルがかなりの容量を占有していたことが判明しました。

それらは、主にコピーされた動画ファイルで、特に容量が大きかった十数ファイルを削除した結果「減価償却が終わるまで大丈夫」と思えるほどの空き容量が確保できたそうです。結果、追加ストレージを検討する必要もなくなり、事実上のコスト削減が達成できたのです。



使用頻度の高いデータ

コールドデータ

ZiDOMA data の分析がもたらした予想外の導入効果

ZiDOMA dataによるファイルサーバの分析は、斉藤氏がまったく予想もしていなかった副産物をもたらしました。それはプリンタ出力トラブルの解消です。

同社では、以前より「プリンタの出力が極端に遅い」という問題を抱えていました。いろいろと調査してみたものの原因がわからず、現場ユーザの大きなストレスとなっていたそうです。

しかし、ZiDOMA dataでファイルサーバを分析したところ、プリンタドライバが異常なレベルでキャッシュファイルを吐き出していることが判明しました。この情報をメーカーに伝え不具合を改修した結果、プリンタからの出力がスムーズに行われるようになったとのこと。

「もしかすると、現場のユーザにとっては、ファイルサーバの件よりもこちらの方が大きな効果を感じているかもしれません。」

将来的にはハイパーコンバインドやクラウドなども検討 今後の新しい提案にも期待

初回の分析で、対策に必要な分析結果はほぼ出揃ったため、その後のZiDOMA dataの利用は「気になることがあったら試す」程度にとどまっているとのこと。ただ、ファイルサーバの減価償却が完了するタイミングに合わせて、新しい試みを検討中とのこと、それに合わせて利用する回数が増える可能性も高くなることが予想されています。

「次期ファイルサーバの候補としては、ハイパーコンバインドインフラストラクチャ（HCI）が上がっています。まだ構想段階ですが、海外拠点の基盤をクラウドに移行するという考えもあります。今回の件で、問題解決の方法は1つではないことがよくわかりました。現在、私たちが使用しているARIさんの製品はZiDOMA dataだけですが、選択肢が多いに越したことはないので、その他の製品についてもご提案いただいて、いろいろと試させていただきたいですね。」

AR アドバンステクノロジー株式会社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-14-16 渋谷野村証券ビル8F
TEL : 03-6450-6080 URL : <https://ari-jp.com>
プロダクトセールス担当 ari-marketing@ari-jp.com

